



地域のかお シリーズ98



「命を考える日」



宮崎市立広瀬西小学校
校長 森 康 彦

今年度、日之影町立宮水小学校より赴任して参りました森康彦と申します。地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

毎朝、私は通称たけのこ坂の横断歩道で交通立ち番をしています。子どもたちの中には、元気のよいあいさつをしてくれる子どももいます。そのたびに元気が湧いてきます。よく「子どもたちからパワーをもらっています。」と聞きますが、本当にその通りだなあと実感させられます。廊下ですれ違ったときに礼儀正しくお辞儀をしてくれる上級生、いろんな場所で「校長せんせい。」と言って手を振ってくれる下級生。本校の児童は、とても素直でかわいらしい子どもたちです。子どもたちから毎日元気をもらっているおかげで、何とか毎日過ごせているのかなあとと思っています。

さて、平成21年6月28日に児童が病気のため亡くなったことをきっかけに、本校では6月28日を「命を考える日」としています。今年度も参観授業で多くの学級が、命の大切さを考える授業を行いました。この授業で、子どもたちは命のすばらしさや大切さについて学ぶことができたことと思います。

実は、二十数年前のことですが、私が受け持っていた男子児童が車にはねられるという事故が起きました。自転車に乗っての飛び出しで、仕事帰りの男性の運転する軽トラックにはねられ、約7メートル飛ばされてそのまま地面にたたきつけられました。児童は、すぐに救急車で運ばれました。私が病

院へ着いたら、病院内に「痛いよ～。痛いよ～」という児童の泣き叫ぶ声が響いていました。看護師さんが、「今、頭皮にめり込んでいる砂利の除去をしているところです。」と説明してくれました。保護者はまだ病院に着いておらず、医師から私と加害者とその妻の3人が呼ばれました。そして、レントゲン写真を見せられ、「ここにひびが入ってますね。頭蓋骨骨折です。」と言われました。男性は声にならないような小さな声で「はい。」と返事をし、妻の目からは涙がどっと溢れてきました。幸い、何の後遺症も残らず、無事3週間で退院できました。でも、命が助かったか、助からなかったかは、紙一重だったと思います。本当に、心から「死ななくて良かった。」と思いました。

横断歩道を渡る子どもたちの様子を見ると、「右よし、左よし、右よし、横断。」と言うばかりで、実際に車が来ていないか確認している児童は、あまり多くない気がします。また、「車は止まってくれるもの。」と頭の中で誤った理解をしている児童もいるのではないかと思います。私は、子どもたちが誰一人として事故に遭わないようにと強く思いながら、明日もたけのこ坂に立ちたいと思います。



【朝の登校の様子とたけのこ坂】

